

ライフケアガーデン熱川 別館

症 例 概 要 利用者：80代 男性 要介護2

病名：後縦靭帯骨化症（術後）、腰部脊柱管狭窄症（術後）、糖尿病、高血圧症

T県出身、定年後は写真や地域ボランティアを趣味として精力的に活動していた。

2010年、交通事故により後縦靭帯骨化症が急激に悪化、手術を行うも右上下肢に運動障害が残る。

2017年、妻が逝去し独居となる。

2018年、運動障害の進行により趣味の活動ができなくなり、自宅にこもることが増える。

2022年2月、腰部脊柱管狭窄症により手術、入院。在宅復帰するも独居は困難な状態であった。

2023年6月、当施設近隣に住んでいる長女から相談を受け、2023年7月、当施設入居となる。

職員の取り組みによって生活に楽しみが生まれ、活動的な人生を再び歩み始めた事例。

内 容

入居当初、身体が思うように動かないことから一日の大半を居室でテレビを見ながら過ごしていました。見かねた娘様が絵画セットを持参するも積極的に取り組めず、不活発な生活が続いていました。その中で入居者さんから、

「遠方から引っ越して来たのだから、これからの生活をもっと楽しみたい」

と、訴えがありました。

職員は入居者さんのもとへ伺い、現在の生活に対して思っていることを傾聴しました。すると、かつては写真を撮るため日本各地へ赴いていたこと、福祉施設でボランティア活動していたことを懐かしく話された一方で、運動障害によりそれらの趣味ができなくなってしまったことや新しいことに取り組むことが億劫になってしまったことを寂しげに話されました。

入居者さんの思いに応えるべく、理学療法士、看護職員、介護職員を交えてミーティングを実施しました。立ち上がりと歩き始めの動作が特に不安定であることから、立ち上がる際は側で見守り、状況に

応じて声掛けや介助することで入居者さんに安心して頂けるようにしました。また、理学療法士から看護、介護職員も実施できるリハビリメニューを考案して貰い、生活動作の安定と筋力アップに向けた運動を日頃から実施していくことを決定しました。

事務職員は入居者さんがスマートフォンを使用していることから当施設のブログを案内、開催しているイベント等を知って頂き、興味があることを伺いました。入居者さんからは、本館で開催した入居者によるマンドリン演奏会とみかん狩りが気になるとお話がありました。そこで、別館職員だけではなく本館職員や施設管理課職員を巻き込み、別館にてイベントを企画、実施しました。

当初、楽しめるか分からないと遠慮がちな入居者さんでしたが、状況に応じた職員の声掛けや介助により安心してイベントを楽しんで頂くことができました。

歩行状態がある程度安定したこと、運動障害があっても当施設でのイベントを楽しむことができると実感して頂いたことで、入居者さんは積極的にレクリエーションへ参加するとともに、前向きな発言が多く聞かれるようになりました。

餅つき大会では職員サポートのもと餅つきに初挑戦、初日の出レクでは海から昇る太陽に感動されていました。

現在では、

「もっと色々なことをやってみたい。色々な所に行ってみたい」

と話し、更なる歩行改善のため積極的にリハビリに励んでいます。ご家族からは、

「いつも父を丁寧に支えてくださりありがとうございます。父も『ここでなら100歳まで長生きできそうだ』と感謝しております」と、お礼の言葉を頂戴しました。

運動障害の影響で不活発な生活を送っていた入居者さんが、職員による「our team」と「親身な対応」の取り組みによって活動的な人生を再び歩み始め、ご本人の頑張りはもちろん「関り」の大切さを改めて感じる事の出来た事例であります。